

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

無限の宇宙の中、真実の音が
今ここに響く。

巨匠ツァグロゼクの「至高のブルックナー」

LOTHAR ZAGROSEK

Conductor

円熟期を迎えたトイツを代表する巨匠
ローター・ツァグロゼク 指揮

RHIM: Ins Offene... (Second Version, Japan premiere)

BRUCKNER: Symphony No. 7

in E major, WAB. 107 (Nowak edition)

リーム:Ins Offene... (第2稿／日本初演)

ブルックナー:交響曲第7番 本長調 WAB.107 (ノヴァーク版)

Subscription Concert, No. 585

2/22 Fri. 2019 19:00 Suntory Hall

読売日本交響楽団 第585回 定期演奏会

2019年2月22日(金) 19:00 サントリーホール S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥3,300

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休／年末年始を除く) <https://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力: アフラック

ドイツの巨匠ツアグロゼクが振る、 ブルックナー第7番

マズア、レークナー、朝比奈、スクロヴァチエフスキらに続く歴史的演奏へ

BRUCKNER Symphony No. 7



ローター・ツアグロゼク(指揮)
LOTHAR ZAGROSEK, Conductor

古典派から現代作品まで得意とするドイツを代表する巨匠。H.スワロフスキ、B.マデルナ、カラヤンらに師事。ライプツィヒ歌劇場の音楽総監督、ベルリン・コンツェルトハウス管の首席指揮者などを歴任。1997年から2006年までシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めた間、同歌劇場は権威ある専門誌「オーバンヴェルト」の年間最優秀歌劇場に5度選ばれ、自身も年間最優秀指揮者に2度選出された。これまでにベルリン・フィル、ウィーン響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ミュンヘン・フィル、フランス国立管などを指揮。ウィーン国立歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、英國ロイヤル・オペラ、ザルツブルク音楽祭などで活躍している。17年にフランクフルト歌劇場でクシェネクの「独裁者」などの3作品を振り、絶賛された。録音も数多く、ワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」、ショーラーの歌劇「烙印を押された人々」、ラッヘンマンの歌劇「マッチ売りの少女」などが高く評価された。読響とは16年以来、2度目の共演となる。

どのオーケストラにも、特別な曲目は存在する。初演を手掛けるなど歴史的な意味がある作品、歴代指揮者や楽団員に思い入れがあるもの、聴衆の心に残っている曲など、様々な要因が考えられる。

読響にとって、ブルックナーの交響曲第7番は、特別な曲目の一つと言えるだろう。1980年代には、クルト・マズア、ハインツ・レークナー、朝比奈隆がこの曲で名演を残し、90年には後に常任指揮者となった尾高忠明が取り上げたほか、〈ブルックナー没後100年〉の96年には再びレークナーが指揮。00年代には常任指揮者ゲルト・アルブレヒトも振っているが、やはり05年と10年のブルックナーの世界的権威スクロヴァチエフスキの演奏は、多くの人の記憶に刻まれているだろう。15年にはカンブルランが新たな解釈を見せ、下野竜也は17年3月の読響との“卒業”にこの作品を選んだ。

今回、この“特別な”作品を振るのは、1942年バイエルン州生まれのドイツの巨匠ローター・ツアグロゼク。古典的なレパートリーに加え、現代作品や埋もれた作品の発掘にも力を注ぎ続けているマエストロだ。3年前の読響への初登場でも、ブラームスやベートーヴェンなどのドイツもので力強く剛毅な演奏を聴かせ、好評を博した。

ツアグロゼクのブルックナーと言えば、06年に首席指揮者を務めていたベルリン・コンツェルトハウス管との第6番の録音での、贅肉を極限までそぎ落としたような骨格のしっかりした演奏が印象的だ。研ぎ澄まされた構造美の中に、独特的味わい深さを感じるもので、この巨匠の高い美意識と奥深さが見事に表されている。今回、10年以上の時を経て、さらに円熟味を増したマエストロが、読響とどのような第7番を聴かせるのか興味は尽きない。読響のブルックナーの演奏史に、新たに1ページが加わる。

前半の現代ドイツを代表する作曲家リームの「Ins Offene...」の日本初演にも注目だ。50年代にシュトックハウゼンやベルント・アロイス・ツインマーマンらが客席に演奏家を配置したように、聴き手を作曲家の音響空間に引き込むような試みがなされている。舞台以外の客席側に、打楽器、トランペット、ヴァイオリンなどが5つの場所に配置され、聴衆はこれらの楽器が有機的に絡む音に囲まれる。ツアグロゼクは、この手の現代音楽にも精通しており、後半のブルックナーへ繋がるような、密度の濃く説得力のある演奏が期待できそうだ。

読売日本交響楽団 第585回 定期演奏会

2019年2月22日(金)19時開演

サントリーホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C Sold OUT

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

・東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分・東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を譲ることはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休／年末年始を除く

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可／チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017